

アカデミックリテラシー

【単位数:0.5単位, 授業10コマ】

1 科目責任者

橋本貴宏 教授(特任)(数学)

2 教育目標

(1) ねらい(I-8-c, II-3-c, II-6-c, III-10-c)

- ① コンピテンスである「コミュニケーション」を修得するために、様々なICTやデータ等を利用して、伝える相手に応じた必要な情報の取捨選択や、論理的な文章の作成、に関する基本的なスキルを学び、生涯学習に必要な自己学習を自律的に行うための基礎知識を習得する。また、グループ学習による他者との議論や課題への取り組みを通して、さまざまな役割を体験し協調性を養い、効果的な協働作業を行うために必要なスキルを学ぶ。
- ② 対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力や、自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための基礎的な能力を獲得する。

(2) 学修目標

- ① 与えられたテーマや論点について、それらに関連する様々な側面を適切に取り上げることができる。
- ② 明らかにしたいことを述べるために、様々な観点から情報を批判的に吟味し、大学初年次にふさわしい必要性の高い根拠を適切に提示することができる。
- ③ 設定された問題に対して、調査で得た結果に基づき、論理的な結論を導くことができる。
- ④ 指定されたルールを守り、読み手に正しく意味が伝わる言葉でレポートを作成することができる。
- ⑤ 論理的な表現の特徴を理解し、分かりやすい文章を書くことができる。
- ⑥ グループでの討論・議論を通して、適切なコミュニケーションを取りながら問題解決に向けて協力し、グループ内での役割を果たすことができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	65%	提出された最終レポートをルーブリックにより評価する。
活動状況	○	35%	講義で行う各ワークで実施した課題、演習や提出物を評価する。
態度	○	—	受講態度が不良の場合は10%を限度に減点する。

出席：単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

再試験は課題・レポートを課す。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

それぞれのワークについて、講義内、又はAIDLE-K等を通して指導及び修正点等の指摘や総括を行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
レジュメ配付			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
思考を鍛えるレポート・論文作成法	井下千以子	慶應義塾 大学出版会	大学生のレポート作成に必要で重要な 内容がコンパクトにまとめられている。
18歳からの「大人の学び」基礎講座	向後千春	北大路書房	論証の方法に加え、アカデミックスキル についてもまとめられている。
知のナビゲーター	中澤 務 森 貴史 本村康哲	くろしお出版	この授業での文献参照の形式は、この 書籍のフォーマットに従って記入する。

6 準備学習（予習・復習）

各ワークについて、講義終了後、テーマに関する調査や内容の復習、レポートの作成を行う。レポートの作成については、グループで協働して作業を行うこと(1日あたり約2時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

グループワーク、個人作業、協働レポート作成、演習など、授業時間中は討論や作業を中心に行う。PCを積極的に活用するので、毎回ノートPC又はタブレットを必ず持参すること。

(2) 講義の内容

講義前半は、レポートを書くためのさまざまな基礎的スキルについて学び、講義後半でレポート作成について実践を通して学ぶ。各作業の最初に概要について説明する。